

現在から近未来を見据えた生活サービスの類型化と関係性の考察 —少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの再構築に関する研究(その1)—

準会員○三堂早紀子¹⁾ 同 金久絵里¹⁾ 正会員 友清貴和²⁾ 同 本間俊雄³⁾

5. 建築計画—2. 地域施設基礎 建築計画 少子・高齢化 人口減少 生活サービス 類型化

1. はじめに

1-1. 研究の背景

戦後我が国では、社会・経済システムなど全ての制度設計が人口増加かつ経済成長を前提として行われてきた。しかし、少子高齢化・人口減少社会に突入し、人口構成の変化に伴う既存インフラの不適合や行政サービスの縮小・低下といった問題により、社会システムが揺らぎ始めている。他方、これまで地縁や血縁によって支えられてきた地域社会では、住民のライフスタイルや価値観の多様化に伴い、住民間の交流が停滞し、地域コミュニティの希薄化を招いている。

今後、質の高い住民生活を守っていくには、既存の社会システムや行政サービスの総合的な見直しと、これに見合った社会資本の整備が必要である。

1-2. 研究の目的

本研究では、従来、個別に論じられることが多かった少子高齢化・人口減少に関する問題を総合的に扱い、今後の社会に対応する生活サービス¹⁾についての考察を目的とする。具体的には、表1に示す見地から生活サービスの再構築²⁾方法を見出し、地域に見合った生活サービスの提案を行う。本稿(その1)では、新聞記事から収集したサービスの事例をもとに一般的な視点で生活サービスを整理する。次稿(その2)では、具体的な地域を事例に生活サービスの在り方を捉える。

表1. 今後の社会に必要な要素

補完性の原理	個人が自ら実現できることは個人が行い、個人ではできないことを家族や友人が、家族や友人ができないことを地域住民等(住民・町内会・NPO・コミュニティ組織などといった小さな単位)が行う。さらに小さな単位で不可能なことは市町村、都道府県、国といった大きな単位が順に行政として補完していく。
役割分担	様々な地域の課題に対して、行政だけではなく地域の多様な主体と役割分担をしながら解決していくことを目指す。
新たな地域コミュニティ	多様な主体が参加し連携することで、地域内でテーマや課題に応じたコミュニティ活動を展開し、そしてさらにコミュニティ活動同士ネットワークを形成することで新たな地域コミュニティへと導く。
新しい価値観	今まで個人の生活の充足だけを求めていたのに対し、今後は地域や社会全体を目指す中で自らの暮らしの質を向上させていく。人間の価値観や行動様式といったソフトの地域力開発へと移行する。

1-3. 研究の方法・構成

研究の方法は以下に示すとおりである。

①現在行われているサービスの事例を収集する。②収集した事例を基に、生活サービスの提供形態の類型化を行う。③類型化された生活サービスを複数の視点から分類し、サービス間の関係性を整理する。④鹿児島市の実際の地域を例に、地域社会と生活サービスの現状について分析・考察を行う。⑤各々の地域に見合った生活サービスの在り方を提示する

本稿(その1)で①～③を、次稿(その2)で④～⑤について述べる。

2. 生活サービスの類型化

実際に行われている生活サービスの事例を新聞を利用して収集し、内容及び特徴を把握する。これをもとに、既往研究²⁾で抽出された生活サービスの72項目(少子化分野:24項目、高齢化分野:34項目、人口減少分野:14項目)に対応させ、類型化を行う。

2-1. 事例の収集

2-1-1. 事例収集の方法

収集した事例数は、159事例(少子化分野:51、高齢化:44、人口減少:64)である。まず、大きく5つの視点(事例内容・実施地・サービス提供者・サービス対象者・サービスの広がり)から各事例の特徴を整理する。次に、既往研究の72項目と今回新たに追加した3項目を含む全75項目のサービスに分類する。その一部を表2に示す。

2-1-2. 事例の特徴

事例の特徴を分析した結果、5つの視点のうち、提供者・内容(サービスの形)・広がり³⁾の3点がサービスを特に特徴づける要素として挙げられる。これらは、提供者・対象者の双方に経済的・時間的・身体的側面で大きく影響を与えるためと考える。

(1) 提供者

Consideration to the Type and Relationship of the Life Service that Fixed its Eyes on near Future from the Present.

—A study on Reconstruction of the Life Service Corresponding to Less Children, Aging and Population Reduction Society (Part1)—

MIDO Sakiko, KANEHISA Eri, TOMOKIYO Takakazu, HONMA Toshio

表2. サービス事例(一部抜粋)

分類	サービス名称	概要	事例名(実施地)	事例内容(掲載日時)	提供者	対象者	広がり
少子化	a-8-3	放課後に保護者のいない家庭などの小学校低学年(主に1~3年生)を対象に、適正な遊びや生活の場を提供し、子どもたちの健全な育成を図る事業。	シルバーバンクのボランティア活動(北九州市)	高齢者の持つ知恵や経験、技術を預託し、これを地域社会の中で各種ボランティア活動をして払い出すというコンセプトのもと、高齢者によって構成されたボランティアサークルが、放課後の小学校の教室を使って、昔の遊びを子どもたちに教える。(高齢社会白書118)	ボランティア	児童	小学校区規模
	a-24	ファミリーサポートセンターなどで、育児の援助を受けたい人と行いたい人の協力体制によって、託児や送迎など育児支援を提供するサービス。	鹿児島市ファミリーサポートセンター(鹿児島市)	提供会員の家庭で、保育施設の保育開始前や終了後子どもを預かること。保育施設までの送迎を行うこと。学童保育終了後や学校の放課後、子どもが軽度の病気の場合などに子どもを預かること。(鹿児島市ホームページ)	鹿児島市登録会員	幼児児童母親	市町村内
高齢化	b-1	食事や排泄などで常時介護が必要で、自宅では介護が困難な高齢者が入所する。食事、入浴、排泄など日常生活の介助、機能訓練、健康管理などを提供する施設サービス。	フィオーレ南海(大阪府田尻町)	「抑制しないケア宣言」をだし、事故が起きたら組織・施設長の責任、夜勤者を2人~3人に。個別ケアでは、排泄の間隔をつかみ職員が朝・日・夜に連れていく。食事時間も長く、職員にもゆとりを持たせている。(朝日新聞2005.12.20)	鹿児島市民間事業者	高齢者	中学校周辺規模
	b-29	健康で働く意欲のある高齢者が介護の経験等を活かし、介護を必要とする高齢者に対して、日常生活の支援などを提供するサービス。	高齢者ヘルパー「サンヘルともいき」(茨城県美野里町)	超高齢者向けの交流会「サロンド・みのり」を月1回開催。その送迎役を務める。3級ヘルパーを取得した元気な高齢者が集まって、ボランティアグループ「サンヘルともいき」を結成。介護保険を利用していない高齢者を対象にしたデイサービスの運営を委託し、手工芸や紙細工、朗読などを高齢者同士で楽しむ。(日経新聞2005.07.12)	市町村ボランティア	高齢者	町内会~小学校区規模
人口減少	c-11-2	町内でのあいさつ、声かけ運動や散歩、買い物時のパトロール、通学路の立寄活動などを行い、地域住民の自主組織によって犯罪の防止を行うサービス。	まもるっち(東京都品川区)	新しい防犯システムを使って、犯罪から子供たちを守る。登下校時に身につけ、緊急時に子どもが「まもるっち」のピンを引くと、品川区役所のセンターシステムにつながり、そこから保護者や子どもがSOSを発した付近の協力者等の携帯電話や固定電話に連絡が行き、連絡を受けた大人が駆けつけて、子どもの危険を未然に防止しようというもの。(東京都品川区ホームページ)	区NPO法人地域住民	児童	市区町村
	c-6-1	地域の人々が交流し、触れ合うことを目的とするサービス	サロン茶道 高齢者の集まり(京都府宇治)	高齢者の集まり、仲間をつくって楽しい老後を送ろうとする。自治体などが苦頭を取るのではなく、食事作りは当番制で日程も自分たちで決める自主独立型。(南日本新聞2008.04.15)	個人友人同士	高齢者	高齢者の日常生活圏

「放課後児童クラブサービス(a-8-3)」や「防犯ボランティア(c-11-2)」を例に述べる。両者は社会情勢を反映して特に事例数が多く、特別な人材や施設を必要としないため、内容や提供形態に類似する点が多い。一方で、同じ「防犯ボランティア」でも、提供者によってサービスの内容や提供範囲に大きく違いが見られた。

(2) サービスの形

「特別養護老人ホーム(b-1)」のようなマンパワーによる日常的な介護サービスや、「交流サロン(c-6-1)」のように同世代間のふれあいを目的とする交流のサービスであったりと、サービスを介してやりとりされるものも多様である。

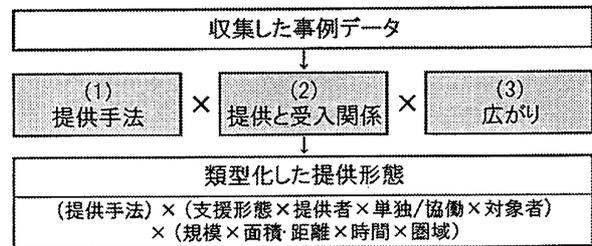
(3) 広がり

相互扶助による子育て支援を行なう「ファミリーサポートセンター(a-24)」は、自治体ごとに設置されるが、提供者(事前登録会員)と依頼者の住む地域や内容を考慮して紹介することにより、市内全域をカバーする。また「高齢者ヘルパー(b-29)」では、提供範囲がサービス提供者である高齢者の生活行動範囲によって限定される。このように、内容や提供者によって、サービスの広がり方や規模に特徴が見られた。

2-2. 生活サービスの類型化

2-2-1. 類型化の項目設定

収集した事例は、どれも先駆的と言える取り組みであり、地域の実情や実験的要素も多く含んでいる。今後の社会に対応する生活サービスの一般解を導くため、収集した事例の特徴や類似するサービスとの比較を行ないながら、類型化する(図1)。ここでは、以下の(1)~(3)に示す項目を設定する。



(1) サービス提供手法

サービスの形	行く/来る	サービス費用	分類
マンパワー	行く(対象者)	あり	1-A-a
		なし	1-A-b
	来る(提供者)	あり	1-B-a
		なし	1-B-b
情報(人間交流や教育など)	行く(対象者)	あり	2-A-a
		なし	2-A-b
	来る(提供者)	あり	2-B-a
		なし	2-B-b
物	行く(対象者)	あり	3-A-a
		なし	3-A-b
	来る(提供者)	あり	3-B-a
		なし	3-B-b
情報(通信機器を用いて得る情報)	行く(送信・発信)	あり	4-A-a
	来る(受信)	あり	4-B-a

(3) 広がり: 圏域

圏域区分	圏域面積	圏域
狭域圏	500m~1km	班・組
		町内会
	半径1~2km	町丁学区
		小学校区
中域圏	半径2~3km	中学校区
		地区
	3km以上	市町村
広域圏		市町村ブロック
		都道府県
		地方
		国

(2) 提供受け入れ関係: 支援形態(補完性の原理)

支援形態	支援の主体		
公助	行政	地方自治体(国・県・市町村)	市や事業者による福祉サービス
共助	自治組織	システム化された支援	NPO法人・ボランティア団体・社協・地域住民組織による支援
互助	家族近隣	インフォーマルな支援	家族・友人・隣人
自助	本人	住民自身	

図1. 類型化の構成

(1) 提供手法

①サービスの形、②行く(対象者)/来る(提供者)、③サービスにかかる費用発生の有無で14のパターンに分類する。

(2) 提供と受け入れ関係

①提供者・対象者の属性分類、②提供者の支援形態

3-1. 関係性の分析方法

ここではサービスの提供者に注目して、サービス間の関係性を分析する。具体的には、1つのサービスについて、他の109種のサービスと共通の提供者を持つ割合を算出し、この値を「中心性」と呼ぶことにする。中心性の値が高いサービスほど、多くのサービスと提供者が同じであることから、サービス同士の連携をとれる可能性が高いことを意味する。表9に中心性の値の上位・下位それぞれ10個のサービスを示す。

3-2. 関係性の考察

中心性の値を算出した結果、3つの分野の全体的傾向として、少子化分野のサービスが上位を、高齢化・人口減少分野のサービスが下位を占めていた。

(1) 上位の生活サービス

関係性が高いサービスとして、高齢者グループホームと児童クラブを併設する「放課後児童クラブサービス(a-8-3)」や、子供の遊び場と子育て講習会を併せ持つ「子育て講習会サービス(a-16-1)」などが挙げられる。関係性が高くとも同じ分野内でのサービスの連携が多数を占め、前者のような分野をまたがるサービス事例はほとんど見られなかった。

また多くの事例で、複数のサービスを行なわなければならないようになった場合は、その都度、市町村が民間に委託したり、民間組織やNPO法人などが他の主体と協働で行う形で対応している。サービス開始当初から連携や複数のサービスを行なうのではなく、段階的に関係を構築していったものと考えられる。

(2) 下位の生活サービス

「交流サロン(c-6-1)」や独居老人の孤独死を防ぐための声かけ活動を行う「防犯ボランティア(b-34-2)」などは他のサービスとの関係性が低かった。こうしたサービスの特徴として、提供者が高齢者であり、比較的小規模の範囲で行なわれていることが挙げられる。サービスの内容の他、提供者の行動範囲や提供可能なサービスの量が連携や複数のサービスの実施に影響を及ぼすものと考えられる。

4. まとめ

本稿では、以下の3点について報告してきた。

第一に、現在行なわれているサービスの事例を収集

表6. 中心性の値が上位のサービスと下位のサービス

サービス名称	分野			中心性の値	
	少子化	高齢化	人口減少		
放課後児童クラブサービスa-8-3	○			0.927	上位
子育て講習会サービスa-16-1	○			0.927	
人材支援サービスc-17-1			○	0.917	
ワーカースコレクティブ活動a-23-1	○			0.899	
保育サービスa-1-1	○			0.881	
家庭的保育サービスa-3	○			0.881	
延長保育サービスa-4	○			0.881	
子育て相談サービスa-14-1	○			0.881	
再就職情報提供・学習支援サービスa-15-2	○			0.881	
子育て講演会サービスa-16-2	○			0.881	
配食サービスc-3-1			○	0.174	下位
人材支援サービスc-17-4			○	0.174	
シルバー人材サービスb-27		○		0.128	
子育てボランティアb-30-1		○		0.128	
子育てボランティアb-30-2		○		0.128	
防犯ボランティアc-11-5			○	0.128	
人材支援サービスc-17-5			○	0.037	
防犯ボランティアb-34-2		○		0.028	
交流サロンc-6-1			○	0.028	
防犯ボランティアc-11-1			○	0.028	

し、その特徴を把握した。提供手法や広がりにおいて、少子化・高齢化・人口現象の各分野で違いが見られ、分野固有の特徴が明らかとなった。

第二に、サービスを提供手法・広がりといった観点を設定し、75項目全110種類のサービスに類型化した。

第三に、サービス間の関係性を数値化して表現することで、サービス全体に占める位置づけを考察した。その結果、サービス内容だけでなく、提供者間のつながりの強さの違いなどがサービスの連携の可能性に影響することが分かった。

今回は、新聞等から得られた先駆的な事例をもとに一般解としての生活サービスを扱った。今後、効率的かつ効果的なサービスの展開には、地域の実情などあらゆる要素を考慮していくことが不可欠である。次稿では、その試みの一つとして実際の地域を想定し、具体的に生活サービスのあり方を捉えていく。

【注記】

- 注1 行政が担ってきた社会資本の整備や福祉サービスに加えて、ソーシャルキャピタルを活用した地域福祉サービスを含む。
- 注2 既存拠点の見直し・新規拠点の構築・拠点間のネットワークの構築を意味する。
- 注3 ①属性(職業・性別・年齢)、②目的(医療・交流・余暇)、③頻度(毎日・週単位・季節単位)、④移動手段と費用(徒歩・自転車・バスなど)

【参考文献】

- 1) 古川恵子、友清貴和；農村地域の高齢者福祉を視野に入れた交際関係の分析,農村計画論文集,3,145-150,2001.12
- 2) 家村さゆり；少子高齢と人口減少社会に対応した生活サービスの抽出及び位置づけ,平成16年度鹿児島大学卒業論文,2005
- 3) 岡田光正；空間デザインの原点,理工学社,1993.11
- 4) 安田雪；実践ネットワーク分析関係を解く理論と技法,新曜社,2001.10

*1 鹿児島大学建築学科
 *2 鹿児島大学 教授・工博
 *3 鹿児島大学 助教授・工博

Student, Dept. of Architecture, Kagoshima University
 Prof., Dept. of Architecture, Kagoshima University, Dr. Eng.
 Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Kagoshima University, Dr. Eng.